

## 令和5年度第1回佐倉市景観審議会 議事録

日 時	令和5年8月8日（火）午後3時～午後5時
場 所	佐倉市役所 議会棟1階 全員協議会室（オンライン併用）
出席者	木下 剛会長、中島 伸副会長（オンライン参加）、永村 景子委員、田邊 学委員（オンライン参加）、内田 儀久委員、岩渕 明弘委員、林 洋太郎委員、森田 敬介委員、小沢 修委員
事務局	都市部長 小菅 慶太、都市計画課長 鈴木 康二、橋本 和喜主査、杉本 裕美主査補、塩田 峻馬主事
議事	1. 「わたしが見つけた佐倉の景観」について 2. その他（報告事項）
配布資料	資料1 佐倉の景観 周知・啓発 資料2 わたしが見つけた佐倉の景観 募集要項・用紙 資料3 オリジナルテーマについて 資料4 わたしが見つけた 佐倉の景観：スケジュール 資料5 令和5年度ポスター 資料6 令和3年度ポスター 佐倉市景観審議会委員名簿
傍聴人	0人

【議事録】

木下会長	内 容
事務局	<p>【議題説明】 「わたしが見つけた佐倉の景観」について</p>
木下会長	<p>それではこれから意見交換をさせていただきたいと思います。オリジナルテーマに関しましては後程単独で議論させていただきたいと思っておりますので、それ以外の部分でご意見やご質問等あればいただければと思います。</p>
事務局	<p>小笠委員が本日ご用事でどうしてもご参加いただけないということで、事前に議事についてご説明をさせていただきました。その際にお預かりさせていただきました小笠委員からのご意見を、意見交換に先立ちましてご説明、ご報告させていただきたいと思います。</p> <p>まず1点目。自然・田園風景は印旛沼周辺、歴史文化は新町周辺など、応募いただく写真の内容が偏ってきている気がする。今までにない新たな風景の写真が多く集まるようなオリジナルテーマを設定した方がよい。</p> <p>2点目はオリジナルテーマのご提案です。佐倉市の大きな魅力の一つは田園風景や里山にあると考えるので、「里山に囲まれた風景」をオリジナルテーマとして提案する。</p> <p>続きまして3点目。募集時期の関係上、応募いただく写真が夏と秋のものに偏っている。景観写真募集が隔年開催であることを、募集パンフレットで周知するなどして、春、冬の写真の応募が増えるような工夫をしてはどうか。</p> <p>以上3点のご意見をお預かりしております。このご意見を踏まえまして、委員の皆様には議論を進めていただければと考えておりますが、都市計画課といたしましても、小笠委員が仰られるように春冬の写真の応募が少々少ない傾向がございますので、周知の時期等も工夫するなどして、検討して参りたいと考えております。事務局の方からは以上となります。</p>
木下会長	<p>ご説明ありがとうございました。ご欠席の小笠委員からお預かりしたご意見ということですので。繰り返しますと、自然田園風景に関しては印旛沼周辺、歴史文化だと新町周辺というように、応募される写真の地域が偏っている。</p> <p>具体的なオリジナルテーマのご提案もいただきました。</p> <p>それから夏と秋にやはり応募写真の時期が偏ってしまっているということで春・冬の写真の応募が増えるような募集を考えられないかということでした。</p> <p>貴重なご意見かと思っておりますので、これを踏まえて議論して参りたいと思います。委員の皆様からもご意見をいただければと思います。先ほど申し上げまし</p>

	<p>たように、オリジナルテーマについてはこの後議論させていただきたいと思えますので、まずはそれ以外で何かあれば、ご意見をお願いいたします。</p>
岩淵委員	<p>質問なのですが、この写真募集「わたしの見つけた佐倉の景観」は、どういった形で周知するのですか。ポスターなどを貼られるのですか。ホームページに掲載しているのはわかりますので、それ以外でどんなところで周知するのでしょうか。</p>
事務局	<p>資料にあるとおりポスター案を作成いたしました。こちらはポスターとしての掲示と併せまして、手に取っていただけるサイズのパンフレットとして、裏面に応募用紙を印刷して各出張所などに配架を行い周知を図って参ります。ホームページでも掲載をさせていただきます。以上です。</p>
岩淵委員	<p>おなじようにやられて、例年どのくらい集まってるのですか。</p>
木下会長	<p>私もそれを伺いたかったのですが、今まで2回この写真募集を行って、それぞれの年度の応募者数、応募件数はどれくらいですか。</p>
事務局	<p>まず初年度の令和元年度は、24名の方からご応募をいただきまして、91枚が集まりました。続いて2年後、令和3年度に実施いたしました際には、66名の方からご応募をいただきまして、集まった写真の枚数といたしましては、187枚となっております。以上です。</p>
岩淵委員	<p>2倍以上に増えているということですね。ありがとうございます。</p>
木下会長	<p>今回もこの勢いに乗って、応募数が減らないようにしたいと思いますので、何かアイデア等ございましたらいただければと思います。</p>
田邊委員	<p>応募条件のところですが、特に今年に入って急速にAIで画像生成をする技術が発達していきまして、今画面を共有してお見せできると思うのですが、キーワードを入れると10秒程度で4枚ぐらい典型的な写真がすぐ出てきます。</p> <p>今、商業広告などの世界で、例えば典型的な自然風景だけが欲しいというときにAIで画像生成されたものを使うと、著作権も特に抵触しません。そういうことが普通に行われるようになってきているのですが、この応募条件の中でAIで生成したものが、はじかれる内容になっているのかどうか、懸念されます。</p> <p>はじかれる内容なのであれば、特に加筆することはないと思いますが、プロ</p>

	<p>の写真コンテストなどでも、実際に AI で生成された画像が応募されてそれが最優秀になってしまったということも実際に起きていますので、その辺りをどのようにお考えかお聞かせいただきたいと思います。</p> <p>今映ってるのは、「日本 佐倉 美しい景観」と入れて出てきた画像なのですが見えますでしょうか。</p> <p>今すごく単純なキーワードを入れているので、誰でも見ればこれは佐倉じゃないとわかりますが、例えば外国人の方が見て、日本の典型的な城下町だと思うぐらいの画像は、生成できるのです。ここに例えば、雪景色というのを加えると、10 秒ぐらいで典型的な画像を生成してくれます。佐倉のどこかで撮ったと主張すれば応募できてしまうようなものが、簡単に出てきます。今後はそれを踏まえて、写真展などは運営する必要があると考えた次第です。</p>
木下会長	<p>質問なのですが、何か明確に AI によって生成されたものだと確認する方法はないのでしょうか。</p>
田邊委員	<p>応募者側の善意などに頼らないと、今は難しいと一般的に言われています。</p>
木下会長	<p>わかりました。ありがとうございます。応募条件に、AI によって生成された写真は駄目だと明記するべきだというご意見でよろしいでしょうか。</p>
田邊委員	<p>そうですね。それが一番明快だと思います。</p>
木下会長	<p>はい、事務局どうぞ。</p>
事務局	<p>応募者の善意によるものになってしまうのかとは思いますが、資料 2、募集要領の応募条件のところ、まず下から 2 番目に「合成や画像加工処理がされた写真は応募できません」と記載しておりまして、また下から 4 番目に、「他の作品展・コンテストに応募されてない写真でご自身が撮影したものに限りませす」と記載しています。</p>
田邊委員	<p>現行の応募条件で「AI は駄目なんだ」ということが読み取れば、特に問題はないと思います。事務局の方でそういう認識があつてこの表現になっているのであれば、特段変えなくてもいいと思いますが、美術大学でも実際にこの問題が喫緊の課題になっていますので、問題提起として意見を申し上げました。</p>
木下会長	<p>ありがとうございます。例えばこの「合成や画像加工処理がされた・・・」</p>

	<p>という部分に括弧書きで、「AIにより生成された写真を含む」などと加筆すると、より明確かなという気がします。</p> <p>これについて皆様のご意見はいかがですか。このままでも結構でしょうか。</p>
事務局	<p>事務局といたしましては、田邊先生のご意見は、ただいま課題となっている問題かと思いますので、AIによる生成を含んで、合成処理がされた写真を応募いただかないように追記をする方向で進めていけたらと考えます。</p>
木下会長	<p>わかりました。では文章の表現はお任せします。他にいかがでしょうか。</p> <p>はい、林委員よろしく願いいたします。</p>
林委員	<p>応募条件の一番上の「今までに取りためた写真でも応募できます」という条件について、さかのぼりはいつまでできるのかを明確にする必要があるかと感じますが、どうでしょうか。</p>
木下会長	<p>はい。いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。林委員のご指摘の部分ですが、同じく応募条件の下から3番目にございます、「ご応募いただく景観は現在も見ることのできるものに限ります」の記述によって、事務局といたしましては「取りためていただいた写真でもご応募いただけるが、現在の景観が写真と変わってしまっているものについては対象としない」という想定をしています。現在も景観として楽しむことのできるもので、応募いただければと考えております。</p>
木下会長	<p>ありがとうございました。いかがでしょう、林委員。</p>
林委員	<p>そうしますと、「今まで取りためた写真の場合、現在も見ることのできる景観であること」と一文で説明をした方がわかりやすいという気がします。</p>
事務局	<p>林委員のご指摘はごもっともかと思いますので、こちらについては一文でわかりやすくご説明させていただくようにしたいと思います。</p>
木下会長	<p>先ほどの小笠委員からのご意見で、夏・秋だけではなくて春・冬の写真応募も増やしたいということになりますと、どのみち取りためたものでないと応募できませんので、この「取りためた・・・」という表記は大事だと思います。</p> <p>その辺を配慮して、修正いただければと思います。</p>

	<p>二つの条件の記載が離れてしまっていますが、すぐ側にあればまだわかりやすいのかもしれませんが。</p>
事務局	<p>はい。わかりました。</p>
木下会長	<p>他にいかがでしょうか。はい、永村委員お願いいたします。</p>
永村委員	<p>2点あるのですが、まず1点目に、写真につきまして、まだ事例はなかったと思いますけれど、ドローンで撮影したものが対象に入るかどうかというところ。視点場を限定するかどうかということになるかと思います。</p> <p>それから2点目に、募集パンフレットの配布・掲示に関して、前回募集時にもお願いをしたのですが、できるだけたくさんの、いろんな世代の方の目に触れるといいなと思いますので、市内の小学校・中学校での配布をご検討ください。生徒さんに配布すれば親御さんの目にも入るかと思います。以上です。</p>
木下会長	<p>2点ご意見をいただきました。いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ドローンによって撮影されたものについて、応募条件の方で、「一般の人が立ち入ることができない場所からでないで見られない景観は対象といたしません」とさせていただいておりますので、ドローンによって、視点場として一般の方が立ち入ることができない場所からの撮影となっているケースに関しては、対象外とさせていただきたいと考えます。</p> <p>続きまして2点目の小・中学校への周知に関しましては、検討させていただきますと思います。以上です。</p>
木下会長	<p>よろしく願いいたします。ただいまのご意見と事務局の回答について、何かご意見があればお願いします。</p> <p>永村委員のドローンについてのご意見は否定的なご意見ですか。それとも積極的にドローンも受け付けたほうが良いというご意見ですか。</p>
永村委員	<p>個人的には否定的な方です。以前他のところで写真募集ではないですがコンテストみたいなことをやった時に、そういった質問が出たことがありましたので、確認させていただきました。</p>
木下会長	<p>まず、ドローンを飛ばしてはいけないところってかなりありますよね。許可がなければ駄目であるとか。なのでそもそも、ドローンOKと書いてしまうとそ</p>

事務局	<p>ういう規制に違反する可能性があります、飛ばしていいところであれば、一律に駄目とするより、個人的には面白いかなと思います。</p> <p>一般の人が立ち入ることができない場所にドローンを飛ばして撮影というのは、もちろん問題があると思いますので、その辺を考慮して表現を考えるか。</p> <p>先ほどもご説明させていただいたように、基本的には皆さんに広く知ってもらいたい景観を募集しますので、その意味で撮影場所は、見に行つて楽しめる場所であるべきと考えております。</p> <p>ただ撮影方法としてのドローンは、いろんな角度で撮影できたり、面白い写真が撮れると思いますし、ドローンによる撮影であってもその景観を見に行つて楽しむことができる場合もあるので、ドローンによる撮影そのものを禁止するとは考えておりません。</p> <p>もちろん、AI で作られたものなどで、あまりにも加工されてしまって、実際現地に行つた時に違う景観だったというのは、事業の趣旨に合わないと考えますが、ドローンによる撮影についても同様に、一般に入れな場所であったり、あまりにも高い位置から撮られていて、その写真の画角でその景観を一般に見ることができない状況は望ましくないと考えております。</p>
木下会長	<p>はい。小沢委員、よろしく願いいたします。</p>
小沢委員	<p>私は視点場というのは景観資源の一つだと思います。ですから鳥の目でなく、人の目を基準とすることが重要だと思います。</p>
木下会長	<p>一律にドローンを規制するものではないというご意見と、人の目線で撮つたものに限定すべきだというご意見が出ております。</p>
事務局	<p>小沢委員、ご意見いただいたところですが、事務局といたしましても、鳥の目ではなくて人の目で見える景観が、佐倉の景観資源として重要であると考えておりますが、それが一概にドローンでの撮影そのものを除いた方がいいというご意見ではないという理解でよろしいでしょうか。</p> <p>もちろん高い場所から撮影したらもう視点が変わってしまいますので、この事業の趣旨と離れてしまうと思いますけれども、ドローンで撮つたけれど人の目で見える景観になっていけば、それは除く対象にはしないという認識で合っておりますでしょうか。</p>
小沢委員	<p>そうですね。その辺は柔軟な対応でいいかと思います。</p>

木下会長	ドローン云々の話は応募条件に加筆しますか。
事務局	「ドローン自体を禁止します」という一文を添えることは敢えて行わず、この「一般の人が立ち入ることができない場所からでないで見られない景観は対象としません」の一文で、ドローンでないで見ることができないもの、高い位置からのものは除くこととし、撮影方法としてのドローンは除かずに鳥でなく人の目の視点で、応募していただく方針で進めたいと思います。
木下会長	特に明記せず、出てきたものをこの基準に従い判断するということですね。ではそのようにさせていただきたいと思います。 中島委員、よろしくお願いいいたします。
中島委員	<p>2点ありまして、まず1点目は資料2の2ページ目、注意事項の1つ目に、「写真コンテストではないので、写真そのものの良さで景観を選定するものではありません」とあるのですが、やはり写りの良い写真は魅力的なので、写真そのものの良さ「のみ」で、選定するものではありませんとした方が、これまでの選定の仕方に照らしても適切な表現かと思いました。</p> <p>もう1点が質問なんですけれども、2カ年に1回この事業をやって、その中で選定された写真を使って景観カレンダー作られてますが、2カ年に1回しか景観カレンダーを作っていないのでしょうか。</p> <p>ホームページ見ますと、2022年度のもの載っていて2023年度のものがないので、要は2カ年に1回写真を選定して、景観カレンダーが市民の手に届くのも2カ年に1回分しかないということだとすると、せっかくやっている事業なのに、周知の仕方としてそれで良いのだろうか非常に疑問に思いました。</p> <p>写真は2カ年に1回の選定でも良いと思うのですが、景観カレンダーの制作については毎年やることによって、今年も景観カレンダーが来たね、という形にしていくことで定着につながると思います。</p>
木下会長	ありがとうございます。確認ですが要するに、毎年カレンダーを出せるように写真を多めに選ぶということでしょうか。
中島委員	そうですね。2カ年分選んでも良いかもしれないですし、写真は変わらなくても、2023年の暦に変わったバージョンがあるだけでも良いと思います。2年に1回しか作られないということは、飛び飛びでしか受け取れないという形になるので、不十分ではないかなと思いました。



木下会長	わかりました。ありがとうございます。これは予算的な問題にも絡んでくるのかもしれませんが。
事務局	先ほど案内時期について検討させていただき旨申し上げたところですが、そのことも併せまして、予算等の問題はあつものの、写真をホームページにアップすることは可能ですので、応募数にもよりますができれば2ヵ年分選ぶとか、或いは同じ写真を使って暦を変えるとかによつて検討させていただきたいと思つます。
木下会長	私もそうしていただければと思つます。大事なご意見、ありがとうございます。もう1点は文言の話でした。これはよろしいですか。
事務局	おっしゃる通りだと思つますので、「写真そのもののよさのみで・・・」と修正させていただきたいと思つます。
木下会長	ありがとうございます。 はい。どうぞよろしくお願ひいたします、森田委員。
森田委員	根本的な部分になるのですが、令和元年から始まつて、これから写真がどんどん溜まつていくと思つますが、都市計画課としては、ずっとこの事業を続けていくのかということと、写真が溜まつた場合に、例えば市民がこの写真をコンテンツとして使えるとか、何か企画があるといいと思つます。 毎年続けていく事業が悪いわけでは全然ありませんが。 大きい企画という意味ではなくて、増え続けた写真をどうするのかと考えるのですが、この点について何か考えはありますか。
木下会長	ご意見ありがとうございます。確かにもう、元年度に91枚、令和3年度に187枚と、貴重なストックがどんどんたまつてきています。 その有効活用と申しますか、何か企画があると良いというご意見でした。
事務局	ご意見ありがとうございます。確かにありがたいことに写真が溜まつてきていますが、これに対しての企画については検討が進んでいないというのが現状です。市民に対して、例えばフリーで使つていただける素材にするのは、権利関係のところなどを精査しないと申せないと考えております。そういった権利関係の部分なども踏まえて、どういった企画が実現可能なのか検討していき

	<p>いと思っています。現状は、市の刊行物などに積極的に使っていけるようにしたいと考えております。</p>
木下会長	<p>ありがとうございます。何か委員の皆さんの方で、有効活用のアイデアがあればいただきたいと思います。</p> <p>小沢委員、よろしく願いいたします。</p>
小沢委員	<p>だんだんストックがたまってくるとすれば、景観資源マップみたいな形で、観光の一助になると思います。季節によって景観資源は変わるとは思います。</p> <p>「こういう視点場、ビューポイントがあるのか」というのを情報提供するような、佐倉市内全域のマップができればいいと思います。</p>
木下会長	<p>ありがとうございます。どこで写真がたくさん撮られてるかとか、それだけでも面白いと思います。大事なご意見だと思います。何か企画があるといいと思いますので、引き続きご意見をお寄せいただければと思います。</p> <p>そろそろオリジナルテーマの議論に移りますので、一旦区切らせていただきます。また何かお気づきの点があれば後程いただければと思います。</p> <p>オリジナルテーマについては先ほど、ご欠席の小笠委員から「里山に囲まれた風景」という具体的なご提案をいただいております。</p> <p>また、春・冬の応募が増えるような工夫ということで、これももしかしたらオリジナルテーマに反映させられることかもしれません。皆様のご意見をいただければと思います。</p> <p>はい。田邊委員よろしく願いいたします。</p>
田邊委員	<p>カレンダーに選ばれている作品など、どれも写真としてのクオリティはとても素晴らしいのですが、「わたしが見つけた」と謳っている割に誰もが知っている場所しか出てこないのが、広がりという意味で課題かと思います。</p> <p>例えばテーマでもっと私的な感情に訴えるような、お気に入りの場所とか、取っておきの景観とか、身近にある風景で、誰もがいいと思うわけではなくても自分はここ好きだよっていう景観を撮っていただけるものを設定すると、身近で自分に関わりがある事象として、景観を捉えていただけていいのではと感じました。</p>
木下会長	<p>大事なご意見ありがとうございます。他にいかがでしょうか。</p> <p>応募される方もつい名所みたいのところを探してしまいがちですが、自分のお気に入りの「マイなんとか」のような、身近な風景でもいいんだということ</p>

	<p>が伝わるテーマなり募集の仕方がいいというご意見ですね。</p> <p>令和元年度は成田街道ということで、これは日本遺産ですね。こういう出来事を機に、タイムリーなテーマを設定いただいたと思うんですが、何か今年は使えるようなイベントや出来事はございますでしょうか。</p>
事務局	<p>成田街道をオリジナルテーマとさせていただいた時と同様に、何かオリジナルテーマの設定に発想を与えるような出来事があればと探したのですが、コロナの影響もありまして、なかなかそれらしいものが見つからず、ご提案ができず申し訳ございません。</p>
木下会長	<p>わかりました。はい。岩淵委員よろしく願いいたします。</p>
岩淵委員	<p>オリジナルテーマと同時に既存テーマがあるわけですよね。カレンダーに選定された12枚の写真のうちの、何枚がオリジナルテーマ、何枚が既存テーマとか、分かれているのですか。オリジナルテーマを募集しても、1枚もそこから採用されない可能性があるわけですか。</p>
事務局	<p>カレンダー写真の選定の際に、既存テーマ・オリジナルテーマそれぞれから何枚ずつということは事務局として考えておりません。</p> <p>集まった写真に撮影場所などを申し添えて、次回の審議会で委員の皆様にも事務局案を出しつつ、選んでいただく形を想定しております。特にそれぞれのテーマごとに何枚ないと駄目とかというのはありません。</p>
岩淵委員	<p>令和3年度の「にぎわいのある風景」だとか「水のある風景」というオリジナルテーマは、既存テーマの「自然・田園」だとか、「歴史文化」とかにも繋がるものになってしまっていると思います。あえてオリジナルテーマとしなくても、いいものが出てくるのではないのでしょうか。成田街道も市街地のテーマに繋がりますね。オリジナルテーマを設けるなら、オリジナルテーマだけでカレンダーを作る方がいいのではと思います。</p>
木下会長	<p>なるほど。ただいまのご意見についていかがでしょうか。応募の内訳はわかりますでしょうか。オリジナルテーマの応募はどのぐらいでしょうか。</p>
事務局	<p>手元に資料がなく、お答えできません。</p>
木下会長	<p>「水のある風景」というオリジナルテーマは、和田地区・弥富地区の写真が</p>

	<p>少なかったところ、こういうテーマにしたら、和田や弥富の応募が増えたので、これはこれでよかったと思います。今回は春・冬の写真が少ないというご意見がありました。</p> <p>そうしますと今出ているご意見としましては、小笠委員から、「里山に囲まれた風景」というテーマが一つ。それから先ほど田邊委員から、「私のお気に入りの景観、とっておきの景観」という、応募しやすいご提案が一つ。</p> <p>それとこれは提案ではありませんが、春冬の写真をもっと増やせないかという、大体三つがあると思うんですが、ご意見をいただければと思います。</p>
小沢委員	<p>私は小笠委員のテーマに賛同しますが、里山というと最近、昔の西部自然公園が佐倉里山自然公園になったので、そこをピンポイントでテーマにしてはどうかと思います。「わたしが見つけた」、「お気に入りの」というのもいいと思います。</p>
木下会長	<p>具体的なお提案ありがとうございます。佐倉里山自然公園という特定の場所をテーマにするのと、「わたしのとっておきの景観」というテーマがいいというご意見でした。いかがでしょうか。</p> <p>はい。林委員よろしく願いいたします。</p>
林委員	<p>ただいまの里山の件ですが、佐倉里山自然公園に特定するのではなくて、他にも里山保全団体が結構市内に広まってきているので、限定するより広く捉えて、「佐倉にある里山」のようなテーマがいいのではと思います。</p>
木下会長	<p>そうですね。いかがでしょうか。他にご意見いただければと思います。</p> <p>はい。中島委員お願いいたします。</p>
中島委員	<p>先ほど田邊委員からもあった、「私のとっておきの・・・」というテーマは非常にいいと感じました。既存のテーマと違う形で、日常的な佐倉の市民の暮らしに寄り添った、或いは根差したものがもう少し出てくると、今までのカレンダーに掲載された写真とは違った切り口の写真が出てくることになるかなと思いました。学術的には生活景という言い方がありますがけれども、そういった視点で、暮らしている方たちの目線で見えている、好ましいと思う、日常の風景が取り出してこれると、今までと違う切り口になると思いました。</p> <p>「私の暮らしの風景」のような言葉でイメージしていただけると、ポストカードのような風景写真ではなく、スナップ写真のような、佐倉で暮らしている方たちの雰囲気伝わってくるような写真が集まってくると思います。それを</p>

	<p>カレンダーにする時にどう作るかはチャレンジかもしれないですが、景観や風景の捉え方の視野が広がる写真が集められると、今までと違うチャレンジになると感じました。</p>
木下会長	<p>ありがとうございます。森田委員よろしくお願ひいたします。</p>
森田委員	<p>質問なのですが、景観審議会の委員がこの場で次見るときに、オリジナルテーマの写真と既存テーマの写真は分けて見ることができたでしょうか。特に今回のように「とっておきの・・・」というテーマだと、分けてみたいと思ったのですが。</p>
木下会長	<p>はい。事務局、お願ひいたします。</p>
事務局	<p>写真を選定していただく時は、どのテーマで応募されました、というのは明示していたと思いますが、テーマごとに何枚ずつ選ぶなどということはしていませんでしたと記憶しております。</p>
森田委員	<p>個人的には先ほど田邊先生・中島先生からいただいた、身近な視点での写真というのは面白いと思いました。ただ、カレンダーを作る時に本当にチャレンジだなというところが引っかかっています。</p>
木下会長	<p>そうですね。カレンダー作成については、チャレンジだと思いますが。このテーマで募集したとしたら、このテーマでどんな写真が来たのか分けてみたいですね。よろしくお願ひします。カレンダーの編集については、写真が集まった段階でもう一度審議会で議論するチャンスありますね。その時に議論ができるように、少なくとも応募されたテーマがわかるように資料を作っておけばと思います。</p> <p>はい。中島委員、お願ひします。</p>
中島委員	<p>もし、「日常的な風景」のようなオリジナルテーマを設定した暁には、今まで選定してきたような雰囲気の写真が、2024年度の景観カレンダーになり、2025年度はこの「とっておきの」、「ありふれた日常」のような写真だけで12ヶ月構成されるの景観カレンダーを作って、毎年順番に、絵はがきの綺麗な綺麗で誰が見ても美しいと思うようなバージョンと、佐倉の人の日常を窺える、触れられるようなバージョンができると面白いと思いました。</p> <p>この2種類を混ぜるとなかなか、何でいきなりこの写真が？と思うかもしれ</p>

	<p>ないですけど、もし「とっておきの」、「ありふれた日常」のようなテーマに、たくさん写真が集まったら、そういうものができると思います。</p>
木下会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>テーマの候補が二つ挙がりました。「里山」と「とっておきの、くらしの風景」です。</p>
事務局	<p>事務局です。文言についてもある程度決めていきたいとは思いますが、今回二つ候補をいただいております、どちらも佐倉の景観資源を考えるにあたって、切り口としてあった方がいいのではと思います。</p> <p>前回は、「水のある風景」と「にぎわいを感じる風景」の、二つのオリジナルテーマを設定いたしましたけれども、今年度も二つオリジナルテーマとして設定することをご提案したいと思います。</p>
木下会長	<p>私もそれでいいと思います。皆様よろしいですか。</p> <p>では以上の二つを今回のオリジナルテーマに設定させていただくということで決定させていただきたいと思います。</p> <p>文言としては、「私のとっておきの景観」ないしは、「私の暮らしの風景」と、「里山」或いは「里山に囲まれた風景」をご提案いただきました。以上を踏まえてご検討いただければと思います。</p>
事務局	<p>方向性が決まり、使うワードの候補も出ましたので、それを踏まえまして、事務局の方で二つオリジナルテーマの案を作り、皆様にメール等でご報告させていただき形はいかがでしょうか。</p>
木下会長	<p>よろしいでしょうか。ではそのように進めさせていただきたいと思います。</p> <p>以上が景観写真の募集に関する議論ですが、他に付け加えて議論すべき点やご意見がございましたらよろしくお願いたします。</p>
中島委員	<p>今回、応募についての議論ということでしたが、一つ気になったのは資料3の1ページ目、「オリジナルテーマの意義について」というところです。設定したオリジナルテーマについての景観を市として大事にしていく意思表示ができることが、このオリジナルテーマの意義として挙げられています。先ほど森田委員からもこの事業自体、今後どう続けていくのかという話がありましたが、この会議は景観審議会であって、景観写真選定委員会ではないので、景観の審議をしていくのが我々のやるべきことで、その中の大事な事業として今回の事</p>

	<p>業があると認識しています。</p> <p>オリジナルテーマを設定することも非常に大事だと思いますが、市として大事にしていくということは、景観写真を募集・選定しカレンダーにしておしまいなのでしょうか。</p> <p>景観審議会でその先をどうできるか議論していくことが大事で、一般の皆さんから応募いただいた写真によって大事な景観を周知するだけでなく、それをどう大事にしていくのか議論をしないと、景観写真選定委員会になってしまうと思います。</p> <p>ここ数年の景観審議会であまりその議論ができていないように感じていて、どちらかというルーティンに事業をこなしていく形になってしまっていると危惧しています。森田委員の発言も、その点についての大事な投げかけだと感じております。</p> <p>議事の立て方や進め方を今後ご検討いただけないか、要望として意見させていただきます。</p>
木下会長	<p>大事なお意見をありがとうございます。</p> <p>今のようなことを景観審議会ですべて具体的に議論できるといいですが、事務局いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>確かに写真の選定だけになっていた節があったと反省しております。</p> <p>今後審議会でも、写真を選んだ先の議論ができるように検討していきたいと思っております。次の審議会でも、何かご報告できるようにしたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
木下会長	<p>今回は12月頃ですね。景観審議会の準備で大変かと思いますが、大事なお意見かと思っておりますので、ぜひご検討をよろしくお願いいたします。</p> <p>続いて次第2、その他として報告事項がございます。事務局よりご報告をお願いいたします。</p>
事務局	<p><b>【議題説明】</b></p> <p>その他</p>
木下会長	<p>ご報告ありがとうございました。</p> <p>景観法の運用報告と景観まちづくり賞について報告がありましたが、ご意見、ご質問等あれば、よろしくお願いいたします。アドバイザーの委員の皆様から補足していただける点があれば、よろしくお願いいたします。</p>

田邊委員	<p>水飲み場のデザインの事例を挙げていただきましたけれども、アドバイザー会議では、ふるさと広場というのはオランダ風車があって、オランダの田園風景を模して空間作りをしているわけですので、こういうプラスチックのシールを貼った給水器ではなくて、例えば木のオーニングで囲われた、世界観を壊さない給水器にしたほうがいいのではないかとか、この給水器の後ろにたくさんあるのぼり旗のような世界観を壊すものは市としても管理をして、訪れた方が写真を撮ったとき見映える空間になるようにという、全体的なお願いも申し添えさせていただきました。それぞれの案件の改善例を報告いただくことはとても良いことだと思いますし、私たちとしてもありがたいことだと思うのですが、実際にはもっと大きな課題があって、そこから目をそらさずに運用していただいただけると、アドバイザー会議を開く価値というのがより一層有意義なものになると思います。</p>
木下会長	<p>ありがとうございました。永村先生お願いいたします。</p>
永村委員	<p>今年度から公共事業に関するアドバイザー会議はZoomを使って、アドバイザー3名と市の担当者、都市計画課担当者が直接顔を突き合わせてアドバイスができる状況を作っていただいております。まだ走り出したところではありますが、直接コミュニケーションが取れるという点で非常にありがたいと思っておりますので、継続いただければと思います。</p>
木下会長	<p>ありがとうございました。事務局から連絡事項等あれば、よろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>特に連絡事項はございません。</p>
木下会長	<p>承知しました。それでは以上をもちまして令和5年度第1回佐倉市景観審議会を閉会とさせていただきます。委員の皆様におかれましては、お忙しいところをご出席いただき、ありがとうございました。事務局においては、よりよい景観形成に向けた取り組みを引き続きよろしくお願いたします。</p>